

# JCC日星国際交流デザインワークショップ

## 「シンガポールと日本へ、次世代都市住居の提案」



日本とシンガポールの学生が建築を通じて互いの文化を学び、次世代の住居を協働で提案しました。

町屋建設現場の見学（日本）

都市開発局(URA)でのレクチャー（シンガポール）

大工集団作事組によるレクチャー（日本）

歴史的なショップハウスの見学（シンガポール）

### 活動の概要

目的	両国の建築に関連する伝統技術や先進例についての学習 / 学習成果を取り入れた次世代の住居の提案
連携メンバー	在シンガポール日本大使館 / ジャパンクリエイティブセンター (JCC) / 国際交流基金 / シンガポール建築家協会 / シンガポール都市再開発庁 (URA) / DEG Architects / DP Architects / Liu & Wo Architects / UR都市機構 / 株式会社NTTファシリティーズ / 株式会社日建設計 / 株式会社三菱地所設計 / シンガポール国立大学 / 京都工芸繊維大学 / 関西大学環境都市工学部 都市設計研究室 (木下光研究室)
活動地域	日本 (連携先企業内、団地、京町家) シンガポール (連携先企業内、ショップハウス (※)、ジャパンクリエイティブセンター)
活動期間	2014年6月～2014年10月

※ショップハウス…ショップハウスは、1階部分が店舗、2階以上が居住として建てられ、京都の町家と類似する都市住宅モデルとしてつくられる。シンガポールのほとんどのショップハウスには、道路と建物の間にファイブ・フット・ウェイ (five-foot way) と呼ばれる約1.5メートル幅の公共通路があり、歩行者にとって便利な日除けや雨除けになる。

### 連携の経緯

2013年12月に日本政府が日・ASEAN特別首脳会議においてアジア文化交流政策「文化のWA (和・環・輪) プロジェクト～知り合うアジア～」を発表。その政策の実施機関である国際交流機関の支援を受け、ジャパンクリエイティブセンターと在シンガポール日本大使館が本ワークショップを主催することとなり、シンガポールの建築業界でも豊富な人脈を有する木下研究室が参画することとなった。



12家の模型とパネルの展示風景

体験した建築や町の写真やスケッチを展示

### 解決すべき課題

- (1) 「イノベーション (革新) とトラディション (伝統)」をテーマとする両国の情報発信や文化創造
- (2) 次世代の魅力的な都市デザインを担う人材の育成

### 大学の役割

本ワークショップでは関西大学都市設計研究室を含む両国の大学生が協力して、連携先企業におけるインターンシップ、伝統的な建築技術の調査、次世代の住居空間の提案などを行った。

ワークショップの主な活動内容は以下のとおり。

#### 2014年7月 日本ステージ

- ・連携先企業におけるインターンシップを通じて日本の設計手法を学習
- ・団地訪問により団地再生について学習
- ・京町家の調査および提案

#### 2014年8月 シンガポールステージ

- ・日本ステージと同様にシンガポールの設計事務所でのインターンシップ

- ・ショップハウスを調査し京町家での提案も踏まえて次世代都市住居を提案

#### 2014年10月 展覧会

- ・ジャパンクリエイティブセンター (シンガポール) において展覧会および国際シンポジウムを実施

#### 2015年10月 記録集出版とシンポジウム

- ・ワークショップの記録集を出版およびシンガポールにてシンポジウムを開催

記録集：共編著、宮内智久・木下光、「PAST WISDOM IN FUTURE DESIGN いにしへの英知がつくるアジアの未来」、1-254頁、NUS-CASA・JCC、Oct2015、ISBN 978-981-09-6995-0

なお、上記ワークショップは学生が中心となって活動したものであるが、その実現の背景には多数の連携機関の協働がある。木下は主に両国における人脈を活用して、ワークショップを真に実りあるものにするという点において尽力した。



提案町屋の模型の一つ

### 成果

- (1) 両国の建築に関連する伝統技術や先進例を学習
- (2) 学習成果を活かして海外で展覧会および国際シンポジウムを実施
- (3) ワークショップの記録集を出版し在シンガポール日本大使館の竹内大使に贈呈

### 研究者の紹介



環境都市工学部 教授  
木下 光  
(きのした ひかる)

専門は都市デザイン (公共空間、都市再生)  
都市計画・建築計画 (都市居住、公設市場、酒蔵)・都市論。